

資料

2008年度「多文化社会コーディネーター養成プログラム」

- ◎専門職に求められる省察的实践とは何か
全国フォーラム「抄録」の抜粋

- ◎ドナルド・A・ショーンについて

- ◎養成プログラム全体の構成

- ◎養成講座・専門3コースの内容
 - * 共通必修科目
 - * 専門別科目
 - 政策コース
 - 学校教育コース
 - 市民活動コース

- ◎運営メンバー・講師・講座修了者一覧

- ◎2009年度養成講座第2期受講者募集のお知らせ

専門職に求められる省察的实践とは何か

三輪建二・お茶の水女子大学教授

多文化協働実践研究・全国フォーラム 第2回「抄録」より抜粋

はじめに

多文化社会に求められる人材は現在の日本では、日本語ボランティアなどのボランティアであることが多く、専門職（プロフェッショナル）の地位は確立されていないと言えるかもしれない。また、半専門職、準専門職であるからこそ、弁護士や医師に代表される専門職としての地位、少なくとも学校教員などと同程度の専門職としての地位の確保を求める可能性がある。しかしながら、アメリカの組織心理学者ドナルド・A・ショーンは、従来の専門職としての地位の確立を志向することと、そのための専門的知識・技能の習得という養成プログラムに対して警告を発する。

1. 大学の知・実践の知

ショーンは、大学の知の構造を、①基礎科学の要素、②応用科学の要素、③クライアントへのサービスの要素の3つにまとめる。3者はこの順序で大学に取り入れられてきたと同時に、「基礎科学が応用科学を産み出す。応用科学は診断の技法と問題解決の技法を産み出し、それらの技能が適用されて、サービスが現実提供される」という順序で構造化されてきた。大学では、実践はサービスとして低く評価され、基礎科学と応用科学を適用する対象となってしまう。

ショーンはまた、大学で生産されてきた知は、複雑で、不安定で価値観の葛藤を含んでいる現実社会を把握するだけの能力に欠けるようになっていくとも指摘する。

2. 省察的実践とは

省察的実践とは、上記の知の三重構造による「技術的合理性」の思考様式そのものの問い直しを意味する。また、実践の場において、課題を所与のものとして見なし、その解決を目指そうとするのではなく、不確実で不安定な現実社会の中から「課題を設定」する能力を持つこと、そして「わざ」「暗黙知」を用いながら状況に対応していく「行為の中の省察」を専門職自身が明らかにしながら、実践と省察のサイクルを積み重ねていることを意味する。ショーンは大リーグの投手、医師や銀行家、教師プロジェクト（2章）、建築家（3章）、精神分析家（4章）、

自然科学者（6章）、都市計画家（7章）、マネジャー（8章）などの事例（あるいは会話をまとめたプロトコル）を分析しながら、行為の中の省察には一定の構造が、従来の専門職が身に着けてきた技術的合理性のモデルとは異質であるが、それなりに厳密性ある構造が存在することを解明している。

3. 省察的実践の機構としてのセンターたり得るか

ショーンは、行為の中の省察と探究の営みを保証するシステムを構築することで、大学をはじめとする組織の変革（省察的実践の機構）が発展する可能性を示唆する。

大学の実践機関である生涯学習センター、専門職大学院や東京外国語大学多言語・多文化教育研究センターは、従来のままでは大学の知を適用する実践機関に甘んずることになる。しかしショーンの言うように、それらが省察的研究の機関として大学に位置づくようになると、新たな意味と使命を帯びることになる。

「学術研究のための大学の活動としては周辺的だと考えられてきた活動に、新たな意味が与えられるようになる。フィールドワーク、コンサルタント、現職の実践者のための継続教育はこれまで二次的な活動あるいは必要悪と考えられることが多かったが、それらが研究手段として第一級の地位にのぼり、大学の主要な仕事となるだろう」（p. 341）

【参考文献】

- バトリシア・A・クラントン 1999『おとなの学びを拓く—自己決定と意識変容をめざして』入江直子・豊田千代子・三輪建二訳、鳳書房
- バトリシア・A・クラントン 2004『おとなの学びを創る—専門職の省察的実践をめざして』入江直子・三輪建二監訳、鳳書房
- ドナルド・A・ショーン 2007『省察的実践とは何か—プロフェッショナルの行為と思考』柳沢昌一・三輪建二監訳、鳳書房
- ドナルド・A・ショーン 2001『専門家の知恵—反省的実践家は行為しながら考える』佐藤学・秋田喜代美訳、ゆみる出版
- マルカム・S・ノールズ 2002『成人教育の現代的実践—ヘダゴジーからアンドラゴジーへ』堀薫夫・三輪建二監訳、鳳書房
- 松下弘・熊谷勝子 2003『健康日本21と地域保健計画』勁草書房

ドナルド・A・ショーンについて

* 『省察的实践とは何か』の冒頭で、「専門的知識のあり方をめぐる探究は、私自身の工業コンサルタント、技術マネジャー、都市プランナー、政策アナリスト、プロフェッショナルスクール講師としての職業生活から直接導き出されている」(p. i) と自らが述べているように、ショーンの考え方は、専門職としての長い実践経験が土台となっているのである。ショーンの略歴については、同書の解説の中で監訳者である柳沢昌一氏が触れている部分を抜粋 (p. 393 ~ 395)、以下に紹介する。

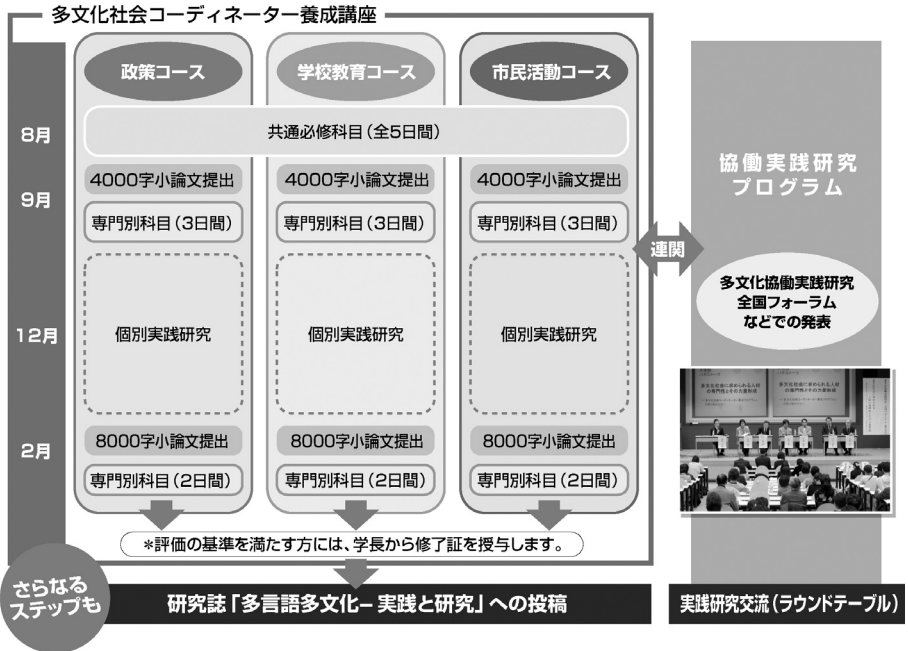
ショーンは1930年9月にボストンに生まれている。高校卒業後、49年から翌年にかけて、パリでクラリネットを学んだのち、イェール大学で哲学を専攻しその後ハーバード大学大学院でジョン・デューイの「探求の理論」(『論理学』)をふまえた実践的な意思決定過程に関する博士論文をまとめている。3年間の軍役ののち、57年、ショーンはアーサー・D・リトル社においてコンサルテーションと調査を行うスタッフとなり、U・S・スチールや連邦政府をはじめとする諸機関からの委託によって、技術革新と組織過程を中心とする調査研究とコンサルテーションを進める。(中略)

1962年から63年、ケネディ政権の時期に、ショーンは商務省が進める技術革新とアメリカの産業に関する研究プロジェクトを任されることになる。その後、商務省の応用技術研究所の所長を務めるが、この政府での活動の時期を通してショーンはいわば「中央からの」改革の困難さに直面することとなる。

1966年以後、ショーンはボストンに戻り、技術革新と社会組織に関する調査研究とコンサルテーションを行うNPO (The Organization for Social and Technical Innovation, OSTI)をみずから主宰し研究と実践を進めていく。(中略) 改革過程の組織問題に焦点を据え、改革を阻害する構造を分析しつつ、ショーンは改革を実現する鍵として「パブリック・ラーニング (Public Learning)」とそれを支える学習組織のあり方に光を当てている。大学も行政とならんで、こうした社会的学習のための組織の重要な機関として、そのためにこそ組織改革が求められるものとして取り上げられている。

1972年、マサチューセッツ工科大学の建築・都市計画のプロフェッショナルスクールの客員教授となり、74年からは正規の構成員 (faculty) として迎えられる。(中略) 『安定状況を超えて』で提起した社会改革のための学習 (public learning) の組織学習の実現、その主要な組織としての大学の教育改革に、ショーンは当事者であり同時にそれを研究の主題とする研究者でもあるという立場で取り組んでいくことになる。

養成プログラム全体の構成



養成講座・専門3コースの内容

【共通必修科目】

■ 時間割

※講師はp.107参照

8月	9：00～10：30	10：40～12：40	昼食	13：40～15：40	15：50～17：30	
22 (金)	9：00～9：50 オリエンテーション 挨拶 亀山郁夫 (学長) 高橋正明 (センター長補佐)	10：00～12：00 多言語・多文化社会 概論 (国内編・海外編) 外国人受入政策 塩原良和・鈴木江理子	昼食 書籍販売	13：00～15：40 ワークショップ① ●課題の共有／受講者の発表（自己紹介） ●コンセプトマップづくり① 杉澤経子・伊東祐郎	15：50～16：50 分析方法を学ぶ 塩原良和	17：00～17：40 基調講演 北脇保之
23 (土)	言語と文化① 多文化社会における文化とは 栗田博之	多言語・多文化社会論① 経済グローバル化と外国人労働者、企業におけるダイバーシティーマネジメント 井上 洋	昼食	多言語・多文化社会論② 政策—国・自治体・市民活動 渡戸一郎	ワークショップ② ●課題の共有／実践を語り聴く ●全体振り返り 杉澤経子・伊東祐郎	
24 (日)	言語と文化② 多文化社会における宗教とは 青山 亨	多言語・多文化社会論③ 福祉—多文化地域社会における福祉の実現 妻鹿ふみ子	昼食	多言語・多文化社会論④ 教育—国際教育・日本語教育 山西優二	ワークショップ③ ●課題把握と分析／アンケート作成 塩原良和 ●全体振り返り 杉澤経子・伊東祐郎	
25 (月)	言語と文化③ 多文化社会における言語とは 風間伸次郎	多言語・多文化社会実践論① 異文化間コミュニケーション 岡田昭人	昼食	多言語・多文化社会実践論② メディアリテラシー・情報編集・発信 小山紳一郎	ワークショップ④ ●実践事例を読む ●全体振り返り 杉澤経子・伊東祐郎	
26 (火)	言語と文化④ 第二言語習得と母語教育 伊東祐郎	多言語・多文化社会実践論③ ボランティア・NPO・社会資源 早瀬 昇	昼食	多言語・多文化社会実践論④ 参加と協働・ネットワーク 下澤 嶽	ワークショップ⑤ ●コンセプトマップづくり② ●多文化社会コーディネーター専門性概説 ●5日間の振り返り ●専門別科目に向けて 杉澤経子・伊東祐郎	

■ 必読・参考文献

3コース共通必読文献

- ①ドナルド・A・ショーン 2007『省察的实践とは何か——プロフェッショナルの行為と思考』柳沢昌一・三輪建二監訳、鳳書房
- ②金子郁容 2002『新版 コミュニティ・ソリューション——ボランティアな問題解決に向けて』岩波書店
- ③『シリーズ多言語・多文化協働実践研究』1～6（全6冊）

コース別 参考文献

【政策コース】

- ①梶田孝道・小倉充夫編 2002『国際社会 3 国民国家はどう変わるか』東京大学出版会
- ②スティーブン・カースルズ、マーク・J・ミラー 1996『国際移民の時代』関根政美・関根薫訳、名古屋大学出版会

【学校教育コース】

- ①佐藤郡衛・片岡裕子編著 2008『アメリカで育つ日本の子どもたち』明石書店
- ②佐久間孝正 2006『外国人の子どもの不就学』勁草書房

【市民活動コース】

- ①平高史也・野山広・春原直美・熊谷晃編 2008『共生——ナガノの挑戦 民・官・学協働の外国籍住民学習支援』信濃毎日新聞社出版局
- ②山西優二他編 2008『地域から描くこれからの開発教育』新評論

■ リーディングスー一覧表

分野	科目名	講義日	講師名	
基調講演		8月22日	北脇保之	
多言語・多文化社会概論（国内編・海外編） 外国人受入政策		8月22日	塩原良和 鈴木江理子	
言語と文化	①多文化社会における文化とは	8月23日	栗田博之	
	②多文化社会における宗教とは	8月24日	青山 亨	
	③多文化社会における言語とは	8月25日	風間伸次郎	
	④第二言語習得と母語教育	8月26日	伊東祐郎	
多言語・多文化社会論	①経済グローバル化と外国人労働者、 企業におけるダイバーシティマネジメント	8月23日	井上 洋	
	②政策一国・自治体・市民活動	8月23日	渡戸一郎	
	③福祉一多文化地域社会における福祉の実現	8月24日	妻鹿ふみ子	
	④教育一国際教育・日本語教育	8月24日	山西優二	
多言語・多文化社会実践論	①異文化間コミュニケーション	8月25日	岡田昭人	
	②メディアリテラシー・情報編集・発信	8月25日	小山紳一郎	
	③ボランティア・NPO・社会資源	8月26日	早瀬 昇	
	④参加と協働・ネットワーク	8月26日	下澤 嶽	
ワークショップ		8月26日	杉澤経子	

	参考文献
	広渡清吾 2002「外国人・移民政策と国民国家の論理」『国際社会 3 国民国家はどう変わるか』梶田孝道・小倉充夫編、東京大学出版会、p. 225～256
	小井土彰宏 2005「国際移民の社会学」『新・国際社会学』梶田孝道編、名古屋大学出版会、p. 2～23
	クリフォード・ギアツ 2002「反=反相对主義」『解釈人類学と反=反相对主義』小泉潤二編訳、みすず書房、p. 59・94
	青山亨 2006「東南アジアにおけるイスラームへの視点——イスラームの普遍性と地域の多様性——」『南太平洋海域調査研究報告』No.43、p. 3～14
	小林寧子 2007「インドネシア 国家と宗教の微妙な関係」『ワセダアジアレビュー』3号、p. 46～51
	風間伸次郎 2006『世界のなかの日本語』⑤くらべてみよう、文のしくみ、小峰書店、p. 6～40 ④くらべてみよう、言葉と発音、小峰書店、p. 6～40
	伊東祐郎 1999「外国人児童生徒に対する日本語教育の現状と課題」『日本語教育』100号、p. 33～44
	コリン・ベーカー 1996『バイリンガル教育と第二言語習得』岡秀夫訳・編、大修館書店、p. 87～101、p. 161～176、p. 231～269
	規制改革会議 2007「高度人材の移入に資する出入国管理制度の見直し」『規制改革推進のための第1次答申——規制の集中改革プログラム——』p. 69～72
	規制改革会議 2007「海外人材分野」『規制改革推進のための第2次答申——規制の集中改革プログラム——』p. 176～181
	規制改革・民間開放推進会議 2007「国際経済連携分野」『規制改革・民間開放の推進に関する第3次答申——さらなる飛躍を目指して——』p. 117～125
	社団法人日本経済団体連合会 2004『「外国人受け入れ問題に関する提言」の概要』
	社団法人日本経済団体連合会 2007『外国人材受入問題に関する第二次提言』
	渡戸一郎 2007「多文化共生社会の課題と自治体政策」『国際文化研修』55号、全国市町村国際文化研修所、p. 6～11
	古川孝順 2007「総論」『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版、p. 2～7
	田端光美 2007「社会福祉の展開基盤」『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版、p. 8～11
	田嶋淳子 2007「国内における国際化の現状」『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版、p. 1276～1279
	石河久美子 2007「国内の外国人への支援」『エンサイクロペディア社会福祉学』中央法規出版、p. 1280～1283
	山西優二 2004「多文化共生に向けての教育を考える」『外国人の定住と日本語教育』田尻英三他著、ひつじ書房、p. 103～127
	徳井厚子 2000『異文化間コミュニケーション入門』西田ひろ子編、創元社、p. 2～29
	小山純一郎 2002「メディア教育」『開発教育キーワード51』開発教育協会編、p. 88～89
	早瀬昇 1992「我が国におけるボランティア活動とその変遷」『企業ボランティアに関する調査研究』中小企業労働福祉協会編
	早瀬昇・石田信隆 2007「『自殺対策基本法』をつくった市民たち」『Volo』2007年12月号、p. 6～17
	李姫子 2006「NGOと国家 文献批評から」『国家・社会変革・NGO—政治への視線／NGO運動はどこへ向かうべきか』藤岡美恵子・越田清和・中野憲志編、p. 163～190
	川村尚也 2003「異文化間教育のための地域ネットワークキングにおけるキーパースンの役割——組織論の視点から」『異文化間教育』18号、p. 47～59
	杉澤経子 2003「在日外国人向けの事業にみる地域ネットワークキング——プログラムコーディネーターの立場から」『異文化間教育』18号、p. 14～20

【専門別科目】

各コースとも、専門別科目（秋期）→個別実践研究→専門別科目（冬期）と進み、全課程を終えた受講者に修了証を授与した。

■ 政策コース

秋期時間割

1日目	9：00～	9：30～12：10			13：10～15：50	16：00 ～17：00	17：00 ～17：30
9月 21日 (日)	オリエン テーション 杉澤経子	プレゼンテーション ●実践現場の現状と課題 ～問題の再把握（分析） と課題の再設定 【20分発表+10分質疑】 北脇保之		昼食	プレゼンテーション ※午前の続き 北脇保之	文献を使っ たワークシ ョップ① 国民国家は どう変わる か 北脇保之	振り返り 杉澤経子
運営	北脇・杉澤・河野・小平						
2日目	9：00 ～10：00	10：10 ～11：10	11：20 ～12：30		13：30～17：30		
9月 22日 (月)	講義① 地球規模の 課題と日本 の多文化化 河野善彦	講義② 企業のグロ ーバル人材 戦略 小平達也	文献を使った ワークショップ② 国際移民の時 代 渡戸一郎	昼食	ワークショップ ●グループ別シミュレーション 杉澤経子		
運営	北脇・杉澤・渡戸・河野・小平				北脇・杉澤・河野・小平		
3日目	9：00～12：00				13：00～15：30	15：45～17：30	
9月 23日 (祝)	個人ワーク・ペアワーク ●個別実践研究に向けてアクション プランづくり 杉澤経子			昼食	発表とディスカッション ●アクションプラン発表 【発表5分+質疑8分】	全体振り返り ●個別実践研究に向 けてモニタリング の方法 ●コンセプトマップ 作成 杉澤経子	
運営	北脇・杉澤・河野・小平				北脇・杉澤・渡戸・河野・小平		



個別実践研究期間 モニタリング日程

受講者10人中9人モニタリング実施

日程	受講者名	内容	会場	モニター
11月17日(月)	須磨珠樹	職場訪問	自治体国際化協会	北脇・小平・河野・杉澤
2009年 1月18日(日)	久保井康典	実践の現場視察	長野県上田市城南公民館	杉澤
1月26日(月)	佐藤則義	職場訪問	横浜市都市経営局国際政策室	北脇・渡戸
1月29日(木)	福井裕子	職場訪問	全国市町村国際文化研修所	北脇・小平・河野
1月31日(土)	二文字屋修	シンポジウムへの参加	日本看護協会ビル・JNAホール	北脇・河野
2月1日(日)	松岡真理恵	実践の現場視察 職場訪問	遠州浜第2自治会公民館 浜松国際交流協会	河野・杉澤
2月4日(水)	敷村弥生	職場訪問 関係者ヒアリング	まつやま国際交流センター 松山市役所	北脇・杉澤
2月4日(水)	藤野紀子	実践プロセスヒアリング	まつやま国際交流センター	杉澤
2月5日(木)	石川秀樹	関係者ヒアリング	東京都清瀬市役所	北脇・渡戸



冬期時間割

1日目	9:00 ~9:30	9:30 ~10:30	10:30~12:30		13:30~17:30			
2月 22日 (日)	オリエン テーショ ン	実践研究 期間の振 り返り	プレゼンテー ション 20分発表 +30分質疑・議論	昼食	プレゼンテー ション			
運営	北脇・藤井・杉澤・渡戸・河野・小平							
2日目	9:00~13:00				14:00 ~15:00	15:10 ~16:00	16:00 ~16:30	16:40 ~17:30
2月 23日 (月)	プレゼンテー ション			昼食	コーディネ ーター論ま とめ ●コンセプ トマップ 作成	全体講評 ●実践研 究論文 とは 尹 慧瑛 ●運営メ ンバー 講評	修了証授 与 学長講話 亀山郁夫	全体講評 (続き) 振り返り
運営	北脇・藤井・杉澤・井上・河野・小平				北脇・藤井・杉澤・河野・小平			

■ 学校教育コース

秋期時間割

1日目	9:00~	9:30 ~12:10		13:10 ~15:50	16:00 ~17:00	17:00 ~17:30
9月 26日 (金)	オリエン テーショ ン	プレゼンテーション ●実践現場の現状と課題～問 題の再把握(分析)と課題 の再設定 【20分発表+10分質疑】 伊東祐郎	昼食	プレゼンテーション ※午前の続き 伊東祐郎	文献を使 ったワー クショッ プ 伊東祐郎	振り返り 杉澤経子
運営	伊東・杉澤・佐藤			伊東・杉澤		
2日目	9:00~12:30			13:30~17:30		
9月 27日 (土)	講義とワークショップ ●学校教育におけるコーディネーターとは ●ケースカンファレンス 佐藤郡衛		昼食	ワークショップ ●コーディネーターの視点でのアクションプ ランづくり 伊東祐郎・杉澤経子		
運営	伊東・杉澤・佐藤・山西					
3日目	9:00~12:10			13:10~15:10	15:30~17:30	
9月 28日 (日)	発表とディスカッション ●プレゼンテーション 【5分発表+10分質疑】		昼食	午前中の振り返り モニタリングについて協議 杉澤経子・伊東祐郎	全体振り返り ●コンセプトマップづくり 杉澤経子	
運営	伊東・杉澤・山西					



個別実践研究期間 モニタリング日程

受講者10人中8人モニタリング実施

日程	受講者人	内容	会場	モニター
10月31日(金)	原千代子	協働実践研究・ プレフォーラムへの参加	川崎市総合教育センター	佐藤
11月3日(祝)	樋口万喜子	実践の現場視察	かながわ県民サポートセンター	伊東・佐藤
11月21日(金)	齋藤重雄	実践の現場視察	文京区立千駄木小学校	伊東・佐藤・ 杉澤
12月13日(土)	田中恵子	実践の現場視察	クリエート浜松	伊東
2009年 2月1日(日)	二口とみゑ	実践の現場視察	広市民センター	伊東
2月2日(月)	築樋博子	実践の現場視察	愛知県豊橋市立岩田小学校他	佐藤
2月2日(月)	五十嵐恵美	実践プロセスヒアリング	愛知県豊橋市教育委員会	佐藤
2月9日(月)	粟根幸子	実践の現場視察、 研究会への参加	神奈川県厚木市立北小学校	杉澤・山西



冬期時間割

1日目	9:00 ～9:30	9:30 ～10:30	10:30～12:30		13:30～17:30			
2月 20日 (金)	オリエン テーショ ン	実践研究 期間の振 り返り	プレゼンテーショ ン 20分発表 +30分質疑・議論	昼食	プレゼンテーショ ン			
運営	杉澤・佐藤・山西				伊東・杉澤・佐藤・山西			
2日目	9:00～13:00				14:00 ～15:00	15:10 ～16:20	16:30 ～17:00	17:00 ～17:30
2月 21日 (土)	プレゼンテーショ ン			昼食	コーディネ ーター論ま とめ ●コンセプ トマップ 作成	全体講評 ●実践研 究論文 とは 尹 慧瑛 ●運営メ ンバー 講評	修了証授 与 学長講話 龜山郁夫	全体講評 (続き) 振り返り
運営	北脇・伊東・杉澤							

■ 市民活動コース

秋期時間割

1日目	9:00~	9:30~12:10		13:10~15:20	16:00 ~17:00	17:00 ~17:30
9月 17日 (水)	オリエン テーショ ン 杉澤経子	プレゼンテーション ●実践現場の現状と課題 ~問題の再把握(分析) と課題の再設定 【20分発表+10分質疑】 塩原良和	昼食	プレゼンテーション ※午前の続き 塩原良和	文献を使った ワークショップ 塩原良和	振り返り 杉澤経子
運営	塩原・杉澤・野山・藤田			塩原・杉澤・藤田		
2日目	9:00~12:00			13:00~14:50	15:00~16:30	16:40 ~17:30
9月 18日 (木)	ワークショッ プ ●グループ別シミュレーション 塩原良和		昼食	ワークショッ プ ※午前の続き 塩原良和	グループ発表 塩原良和・杉澤経子 下澤 嶽・藤田琢磨	振り返り 杉澤経子
運営	塩原・杉澤・藤田			塩原・杉澤・下澤・藤田		
3日目	9:00~11:40			12:40~15:30	15:45~17:30	
9月 19日 (金)	個人ワーク・ペアワーク ●個別実践研究に向けてアク ションプランづくり 杉澤経子		昼食	発表 ●アクションプラン発表 【発表5分・質疑応答10分】	全体振り返り ●個別実践研究に向けて モニタリングの方法 ●コンセプトマップ作成 杉澤経子	
運営	塩原・杉澤・藤田			塩原・杉澤・野山・藤田		



個別実践研究期間 モニタリング日程

受講者10人中7人モニタリング実施

日程	受講者人	内容	会場	モニター
11月21日(金)	佐々木一也	実践の現場視察	東京都文京区立千駄木小学校	塩原・杉澤
12月18日(木)	山崎朱美	実践の現場視察	日本国際協力センター(JICE)	杉澤・野山・ 藤田
2009年 1月5日(月)	花輪豊子	実践プロセスヒアリング	東京外国語大学多言語・多文化 教育研究センター	杉澤
1月11日(日)	林 和子	職場訪問	みのお市民活動センター	塩原・下澤
1月15日(木) ~16日(金)	小浜道子	実践の現場視察 職場訪問 関係者ヒアリング	仙台国際センター	杉澤
1月17日(土)	松岡純子	関係者ヒアリング	長野県駒ヶ根市社会福祉協議会	杉澤・妻鹿
1月23日(金)	長坂玲子	実践の現場視察 関係者ヒアリング	カトリック新潟教会 新潟県国際交流協会	杉澤



冬期時間割

1日目	9:00 ~9:30	9:30 ~10:30	10:30~12:30		13:30~17:30			
2月 17日 (火)	オリエン テーショ ン	実践研究 期間の振 り返り	プレゼンテーション 20分発表 +30分質疑・議論	昼食	プレゼンテーション			
運営	杉澤・尹・妻鹿				北脇・杉澤・尹・妻鹿			
2日目	9:00~13:00				14:00 ~15:00	15:10 ~15:40	15:40 ~16:50	17:00 ~17:30
2月 18日 (水)	プレゼンテーション			昼食	コーディネ ーター論ま とめ ●コンセプ トマップ 作成	修了証授 与 学長講話 亀山郁夫	全体講評 ●実践研 究論文 とは 尹 慧瑛 ●運営メ ンバー 講評	振り返り
運営	杉澤・尹・井上				北脇・杉澤・尹・野山			

運営メンバー・講師・講座修了者一覧

■ 運営メンバー

	メンバー
運営委員 (5人)	伊東祐郎 (本センター副センター長、本学留学生日本語教育センター教授) 北脇保之 (本センター長、本学外国語学部教授) 塩原良和 (08年9月30日まで本センター運営委員、本学外国語学部准教授、 現慶應義塾大学法学部准教授) 杉澤経子 (本プログラム責任者、本センタープログラムコーディネーター) 藤井 毅 (本学外国語学部教授) 尹 慧瑛 (08年10月1日より本センター運営委員、本学外国語学部准教授)
評価委員 (5人)	井上 洋 (日本経団連産業第一本部長) 佐藤郡衛 (東京学芸大学国際教育センター教授) 野山 広 (国立国語研究所日本語教育基盤情報センター整備普及グループ長) 山西優二 (早稲田大学文学学術院教授) 渡戸一郎 (明星大学人文学部教授)
アドバイザー (5人)	河野善彦 (笹川平和財団顧問、元国際協力銀行理事) 小平達也 (株式会社ジェイエーエス代表取締役社長) 下澤 嶽 (特定非営利活動法人 国際協力NGOセンター事務局長、 法政大学非常勤講師) 藤田琢磨 (特定非営利活動法人 国際活動市民中心常務理事、 元米国トヨタ上席副社長) 妻鹿ふみ子 (特定非営利活動法人 日本ボランティアコーディネーター協会 代表理事、京都光華女子大学人間関係学部教授)
事務局 (2人)	加藤丈太郎 (本センターコーディネーター) 長島修子 (本センター事務補佐員)

■ 共通必修科目講師

担当科目	氏名・所属
多言語・多文化社会概論（国内編・海外編） 外国人受入政策	塩原良和 鈴木江理子（立教大学兼任講師）
言語と文化① 多文化社会における文化とは	栗田博之（本学学長特別補佐、本学外国語学部教授）
言語と文化② 多文化社会における宗教とは	青山 亨（本センター副センター長、本学外国語学部教授）
言語と文化③ 多文化社会における言語とは	風間伸次郎（本学外国語学部教授）
言語と文化④ 第二言語習得と母語教育	伊東祐郎
多言語・多文化社会論① 経済－グローバル化と外国人労働者、 企業におけるダイバーシティーマネジメント	井上 洋
多言語・多文化社会論② 政策－国・自治体・市民活動	渡戸一郎
多言語・多文化社会論③ 福祉－多文化地域社会における福祉の実現	妻鹿ふみ子
多言語・多文化社会論④ 教育－国際教育・日本語教育	山西優二
多言語・多文化社会実践論① 異文化間コミュニケーション	岡田昭人（本学外国語学部准教授）
多言語・多文化社会実践論② メディアリテラシー・情報編集・発信	小山紳一郎（財・かながわ国際交流財団情報サービス課長）
多言語・多文化社会実践論③ ボランティア・NPO・社会資源	早瀬 昇（社福 大阪ボランティア協会事務局長）
多言語・多文化社会実践論④ 参加と協働・ネットワーク	下澤 嶽

■ 専門別科目運営メンバー

コース名	メンバー
政策コース	運営委員：北脇保之・杉澤経子・藤井 毅 評価委員：井上 洋・渡戸一郎 アドバイザー：河野善彦・小平達也
学校教育コース	運営委員：伊東祐郎・杉澤経子 評価委員：佐藤郡衛・山西優二
市民活動コース	運営委員：塩原良和・杉澤経子・伊 慧瑛 評価委員：野山 広 アドバイザー：下澤 嶽・藤田琢磨・妻鹿ふみ子

■ 養成講座第1期修了者

政策コース

No	氏名	所属	
1	石川秀樹	東京都清瀬市議会 清瀬国際交流会日本語教室	議員 代表
2	久保井康典	長野県上田市 市民生活部 市民課 外国籍市民サービス係	主事
3	佐藤則義	横浜市都市経営局 国際政策室 国際政策課	課長補佐
4	敷村弥生	財団法人 松山国際交流協会 まつやま国際交流センター	所長
5	須磨珠樹	財団法人 自治体国際化協会 支援協力部 地域支援課	主査
6	二文字屋修	AHPネットワーク協同組合	事務局長
7	温井秀明	ヤマハ発動機株式会社 人事部人材開発グループ	主事
8	福井裕子	全国市町村国際文化研修所総務局 経理課	主査
9	藤野紀子	独立行政法人 国際協力機構 四国支部	市民参加協力調整員
10	松岡真理恵	財団法人 浜松国際交流協会	主任

学校教育コース

No	氏名	所属	
1	粟根幸子	神奈川県厚木市立北小学校	教諭
2	五十嵐恵美	愛知県豊橋市教育委員会学校教育課	外国人児童生徒教育相談員
3	小川陽介	東京都武蔵野市立桜野小学校	教諭
4	齋藤重雄	東京都文京区立千駄木小学校 東京学芸大学教職大学院（東京都派遣により在学中）	主幹 大学院生
5	佐々木晶子	東京都大田区立糀谷中学校夜間学級	教諭
6	田中恵子	NPO法人 浜松外国人子ども教育支援協会	事務局長
7	築樋博子	愛知県豊橋市教育委員会学校教育課	外国人児童生徒教育相談員
8	原 千代子	社会福祉法人 青丘社 （川崎市ふれあい館勤務）	職員
9	樋口万喜子	神奈川県立神奈川総合高校 NPO法人 中学・高校生の日本語支援を考える会	非常勤講師 日本語担当 代表
10	二口とみ糸	広島市立東浄小学校 広島女学院高等学校	非常勤講師（日本語指導）

市民活動コース

No	氏名	所属	
1	金 成美	ポラリスプロジェクト 神奈川県立保健福祉大学	相談員 大学院生
2	小浜道子	財団法人 仙台国際交流協会 企画事業課 事業推進係	主任
3	佐々木一也	NPO法人 国際ボランティア21	事務局長
4	長坂玲子	財団法人 新潟県国際交流協会	ボランティアコーディネーター
5	花輪豊子	八王子国際協会地球市民プラザ八王子	事務局員
6	林 和子	インターナショナル	講演・ワークショップ担当
7	松岡純子	地球人ネットワークinこまがね	
8	宮崎妙子	NPO法人 国際活動市民中心 武蔵野市国際交流協会	理事 日本語学習支援コーディネーター
9	山崎朱美	財団法人 日本国際協力センター 国際研修部 研修監理課	副課長
10	山邊真理子	NPO法人 西東京市多文化共生・国際交流センター	副代表理事

2009年度 受講者募集！

文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」

多文化社会コーディネーター 養成講座

8月
開講！

多言語・多文化化によって起こるさまざまな課題に、多様な人々・組織・機関との連携・協働で対応していける人材が、「多文化社会コーディネーター」です。こうした人材を養成するための講座を8月より開講します。現場で実践されている皆さまのご応募をお待ちしています！

●講座期間

共通必修科目	8月21日（金）～25日（火）	※全コース合同
専門別科目（秋期）	9月の3日間	※専門コース別
専門別科目（冬期）	2010年2月の2日間	※専門コース別

●定員

各コースとも10人（書類による選考あり）

●応募メ切り

2009年6月12日（金）（消印有効）

●詳細は、本センターウェブサイト

<http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/> をご覧ください。
（パンフレット、募集要項、申込書をダウンロードしていただけます）

●3つの専門コース 対象者と開講日程

		政策コース	学校教育コース	市民活動コース
開 講 日 程	共通必修科目	8月21日(金)～25日(火) ※3コース合同で実施		
	専門別科目 (秋期)	9月25日(金)～27日(日)	9月19日(土) ～21日(月・祝)	9月12日(土)～14日(月)
	専門別科目 (冬期)	2010年2月14日(日) ・15日(月)	2010年2月11日(木・祝) ・12日(金)	2010年2月8日(月) ・9日(火)
対象者		外国人受入施策や多文化対応施策をコーディネーションする立場にいる 国際交流協会・行政・企業の中堅スタッフ	外国につながる児童・生徒への支援活動をコーディネーションする立場にいる 教職員、教育委員会職員 など	地域で日本語支援や外国人相談、国際交流活動などを行っている 機関・団体の中心スタッフ

●専門コースの科目概要

各コースとも以下3つの科目で構成されています。

共通必修科目 (2009年8月) 【5日間】	3つのコースを合同で開講します。多文化社会コーディネーターとして押さえておくべき知識、視点、課題の分析方法の基礎を学びます。
専門別科目 (2009年9月) 【3日間】 (2010年2月) 【2日間】	コース別に、9月に3日間、2月に2日間と2回に分けて開講します。 9月には、ワークショップ形式で、それぞれの実践の現場における課題を抽出し、具体的な課題分析および解決に向けてどのようなコーディネーションが必要とされるのかを検討。個別実践研究の期間を挟んで、2月には、個別実践研究の成果を発表し、議論をまとめます。
個別実践研究 (10月～ 翌年1月)	9月の専門別科目終了後に、それぞれの現場における実際の課題に対する分析、考察、実践を行います。運営メンバーによるモニタリングやアドバイスを受けることができます。

シリーズ 多言語・多文化協働実践研究1～6、別冊1、2

- ◆1 時はいま、「協働実践研究」はじめの一歩
——非収奪型研究と社会参加——
第1回 協働実践研究全国フォーラム・全体会
-
- ◆2 共生社会に向けた協働のモデルを目指して
——長野県上田市 在住外国人支援から見えてきた課題と展望——
「阿部・井上班」07年度活動
-
- ◆3 越境する市民活動——外国人相談の現場から——
行政区を超えた連携——東京都町田市・神奈川県相模原市——
「渡戸・関班」07年度活動
-
- ◆4 外国につながる子どもたちをどう支えるのか
当事者も参加した拠点・ネットワークの構築——川崎市での実践——
「佐藤・金班」07年度活動
-
- ◆5 地域日本語教育から考える共生のまちづくり
言語を媒介とともに学ぶプログラムとは
「野山班」07年度活動
-
- ◆6 コーディネーターって、なんだ!?
多文化社会での役割・専門性・育成プログラム
「山西・小山班」07年度活動
-
- 別冊 多文化社会に求められる人材とは?
◆1 「多文化社会コーディネーター養成プログラム」
～その専門性と力量形成の取り組み～
-
- 別冊 外国人相談事業——実践のノウハウとその担い手——
◆2 ～連携・協働・ネットワークづくり～ (近刊)

シリーズ 多言語・多文化協働実践研究 別冊1

文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」

多文化社会に求められる人材とは?

「多文化社会コーディネーター養成プログラム」

～その専門性と力量形成の取り組み～

発行日 2009年3月31日

編集・発行 東京外国語大学多言語・多文化教育研究センター

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1
研究講義棟319号室

TEL : 042-330-5441 FAX : 042-330-5448

E-mail : tc@tufs.ac.jp

URL : <http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>